



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

12月定例県議会一般質問



12月定例県議会で一般質問を行う伊藤昌弘県議

知事 平成32年にデビューを予定している新品種は、

伊藤議員 今後もコメ離れが進めば、我が国の水田農業はどうなるのか大変危惧している。この状況を打破するためには、食べたくなるような新しい品種のおコメの開発が求められる。今や、ブランド米の戦国時代と言われ、多くの新品種米、いわゆるブランド米がデビューした。この波に乗り遅れないためにも、千葉県産の新品種米のデビューが待たれる。

夏にもネーミング発表

ふるさと佐倉市の発展に力を注いでいる伊藤昌弘県議は12月定例県議会で一般質問に立ち、農業問題や道路問題、印旛沼の水質浄化・環境問題などを県執行部に尋ねました。デビューを控える千葉県産新品種米について、森田知事は効果的な販売戦略を練っていると答弁、農林水産部長は夏から秋にかけて名称を発表すると答えました。伊藤議員の質疑と県執行部の答弁を紹介します。

千葉県産新品種米 待たれるデビュー

ブランド米戦国時代

コシヒカリと同等以上の良食味で、大粒で白く光沢に優れ、栽培しやすく、収量が多いなどの特徴があり、幅広い用途での需要が期待できます。

このため県では、千葉県産にこだわりのある飲食店や小売店、若い世代が利用しているインターネットの

通信販売など、堅調に需要が推移している外食・中食向けを含め、様々な販売ルートの可能性について、生産者団体、米の集荷団体等と協議しながら、検討しているところだ。

今後は、品種登録出願や愛称の選定を行うとともに、実需者や産地への周知を図り、この品種の特徴を生かした効果的な販売ができるよう、取り組んでまいります。

伊藤議員 飼料用米の目標作付面積と実績の推移はどうか。また、平成30年産の目標作付面積と現時点の実績はどうか。

30年産飼料用米作付け

農林水産部長 本県における飼料用米の目標面積については、平成27年産が5千畝、28年産が7千畝、29年産が1万畝としており、その実績については、それぞれ3974畝、4756畝、5028畝です。

目標の半分に届かず

平成30年産の飼料用米は、目標面積1万畝に対し、実績は4379畝となり、前

水田農業へのICT利用へ実証試験実施

伊藤議員 水田農業へのICTの活用について、県の取り組み状況はどうか。

知事 ICTなど、発展が著しい先端技術の活用は、若い農業者なども取り組みやすく、稲作栽培の省力化や生育データ等に基づく栽培管理の最適化などが期待され、生産性の向上に寄与すると考えています。

伊藤まさひろ・PROFILE

略歴

- 昭和30年 佐倉市に生まれる
- 昭和53年 日本大学法学部卒業
- 平成7年 佐倉市議会議員当選
- 平成11年 佐倉市議会議員再選
- 平成19年 千葉県議会議員当選
- 平成23年 千葉県議会議員再選
- 平成27年 千葉県議会議員3選

現職

- 千葉県議会 健康福祉常任委員会委員
- 日大習志野高校同窓会 会長
- 佐倉リトルシニア野球協会 会長

行するトラクターや田植え機、水田の水位を自動制御するシステムの導入などの実証試験を行うとともに、ドローンやスマートフォンで撮影した画像を用いて、生育途中で与える肥料の最適な量を推定する技術の研究開発などに取り組んでいます。

●今春の県議会議員選挙から佐倉市選挙区は酒々井町選挙区と一緒に、佐倉市・酒々井町選挙区になります。

伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
TEL.043-485-8019
FAX.043-486-1616

安全で円滑な交通へ

道路整備着々と

県道佐倉印西線

田町バイパス整備事業の進捗を要望

伊藤議員 道路問題についてうかがう。国道356号から印西市の千葉ニュータウンを経て、国道51号までを結ぶ県北西部における重要な道路である県道佐倉印西線の田町バイパスの進捗状況はどうか。

県土整備部長 県道佐倉印西線の佐倉市田町の国道296号から岩名運動公園に至る区間において、線形不良の解消と交通混雑の緩和を図るため、1・5キロメートル

の現道拡幅やバイパス整備を進めているところです。

これまでに、現道拡幅区間については、まとまった用地が確保できた力所から、順次、歩道整備を行ってききました。

バイパス区間については、近接する鹿島川の河川整備計画と整合を図りながら、立体交差する鉄道の事業者と設計条件などについて協議を進めているところです。

今後、鉄道事業者との協議を促進するとともに、地元の皆様のご理解とご協力をいただきながら、事業の進捗に努めてまいります。

伊藤議員 この田町バイパスは佐倉市にとつて一番事業推進を求められている道路。相当深く鉄道事業者と協議をしていることと思うので、この事業が加速的に進むよう強く要望する。

伊藤議員 佐倉市と協議を促進するとともに、地元の皆様のご理解とご協力をいただきながら、事業の進捗に努めてまいります。

伊藤議員 県道佐倉印西線佐倉市神門交差点改良の進捗状況はどうか。

県土整備部長 国道51号と県道佐倉印西線が交差

する佐倉市の神門交差点では歩行者の安全と円滑な交通を確保するため、延長224メートルの区間で交差点改良と併せて、今年度は交差点部の用地を取得し、用地取得率は約95%となっております。

今後、取得済み用地内で右折レーンの設置と歩道整備を実施する予定であり、引き続き、地元の皆様のご理解とご協力をいただきながら、事業の推進に努めてまいります。

伊藤議員 佐倉市の長年の課題が前に進む。今後は速やかな事業の推進を要望する。

伊藤議員 佐倉市酒々井地先の通学路800メートル歩道を整備

伊藤議員 県道宗吾酒々井線

井線酒々井町酒々井地先における歩道整備の進捗状況はどうか。

県土整備部長 県道宗吾酒々井線の酒々井地先については、小学校の通学路となっておりますが、歩道が未整備で路肩も狭いことから、歩行者の安全を確保するため、延長800メートルの区間で歩道整備を実施していきます。

平成28年度から用地取得に着手し、現在、約15%の用地取得が完了しており、今年度は、用地取得と用地取得に必要な物件調査を実施しているところです。

引き続き、地元の皆様のご理解とご協力をいただきながら、事業の推進に努めてまいります。

伊藤議員 この、歩道整備については、酒々井小学校があり通学路

として使用している。学校に通う子供たちのためにも早急な整備が求められる。関係地権者から事業に協力するという申し出もある。うなので、早期に用地取得を進め、事業を推進していただくよう要望する。

伊藤議員 県道富里酒々井線道路拡幅事業の速やかな推進を

伊藤議員 県道富里酒々井線墨工区の進捗状況はどうか。

県土整備部長 県道富里酒々井線は、東関東道や近隣の商業施設へのアクセス道路として、重要な道路であり、酒々井町墨工区において1・7キロメートルの道路拡幅工事を行っているところです。

これまでに、東関東道に

架かる古沢橋から、国道296号側の1・0キロメートルについて、供用しております。

現在、残る0・7キロメートルは、まとまった用地が確保できた力所から、道路改良工事を実施しております。

引き続き、地元の皆様のご理解とご協力をいただきながら、残る用地の取得を進め、事業の推進に努めてまいります。

伊藤議員 この道路は東関東自動車道の酒々井インターチェンジや酒々井プレミアムアウトレットにつながっている道路で、つまり大変混雑する道路ということだ。

酒々井プレミアムアウトレットは今後とも拡張をする予定だということなので、さらに交通量が増えることと予測される。残る用地の取得と事業の推進を要望する。

集中的な捕獲に取り組んでまいります。

その後、防除事業を通じて得られました、詳細な生息状況、効率的なワナの設置方法、メスよりオスが早く捕獲されている実態などを分析いたしました。基本戦略や防除実施計画の見直しを行い、根絶に向けた対策を強化してまいります。

伊藤議員 県は中小企業の事業承継について、今後どのように取り組んでいくのか。

商工労働部長 県では、事業承継の支援体制である「事業承継支援ネットワーク」について、地域の実情に応じた支援の促進に向け、本年8月以降、ネットワークへの市町村の参加を促し、11月までに県内の54全市町村が参加することとなりました。

この体制のもと、より地域に密着して広報や相談業務等の支援を推進するとともに、ネットワークの全体会議を開催し、事業承継の現状と課題や支援策等について、情報交換を行ってまいります。

汚濁メカニズム解明へ

印旛沼水質改善



発言を求める伊藤昌弘県議

伊藤議員 印旛沼の水質浄化と環境問題についてう

かがう。印旛沼の水質浄化が進まない中、新たな取り組み

が必要と思うが、県はどのように取り組んでいくのか。

環境生活部長 印旛沼では、下水道の整備や高度処理型合併処理浄化槽の普及促進などの各種施策の実施により、沼に流入する汚濁は着実に削減されているものの、水質は環境基準を超過しており、横ばいの状況にあります。

水質汚濁の要因には、日常的に流入する汚濁のほか、沼の内部で増殖する植物プランクトンの影響など、様々な事象が複雑に関係していることから、第7期の湖沼水質保全計画では、水質改善に向けた水質汚濁メカニズムの解明に取り組むこととしていきます。

そこで、現在、印旛沼における水質の詳細調査などにより、基礎的なデータを収集しているところであり、引き続き、水質予測モデルの改善に着手する予定です。

伊藤議員 (印旛沼の水質は6連続ワーストワンであり、同じことをやっていたら、間違いなくまたワーストワンになる。新たな取り組みをして、そこから活路を見出すことが、水質浄化の取り組みには大切。新たな取り組みも含め、印旛沼の水質浄化が進むことを期待し、要望する。

特にカミツキガメが活動的になる6月、7月にワナの数を増やして集中的な捕獲を行い、10月末までに2006頭を捕獲いたしました。

来年度は、「カミツキガメの根絶に向けた基本戦略・ロードマップ」における集中実施期間の最終年度となることから、これまでに多数の生息が確認されました水田周辺の水路等を中心に、

カミツキガメ 2千頭を捕獲 10月末までに

伊藤議員 特定外来生物

環境生活部長 今年度は、

カミツキガメの捕獲状況はどうか。また、今後、県はどのように取り組んでいくのか。